高等学校における部活動の体験の内容および体験と大学生の個人の特性との関係

日下部 奈緒

部活動には「学校教育が目指す資質・能力の育成」を助ける役割が期待されている。これまでに、部活動の体験は「活動内容に基づく体験」、「自分自身に関連した体験」、「対人関係に関連した体験」の 3 つに分類されることが示唆されている。また、先行研究では、過去の部活動への所属の有無や所属していた部活動の種類が、部活動での体験に対する感情・認知、部活動への評価、大学時の社会人基礎力などに影響を及ぼすことも示されている。しかし、部活動での体験内容は十分に整理されておらず、部活動での体験や部活動への認知・感情・評価と所属していた部活動の種類との関係性や、具体的な部活動での体験内容と大学生の個人の特性との関係性については明らかになっていない。

そこで本研究では、高等学校における部活動の体験と大学生の個人の特性との関係を明らかにすることを目的とし、次の 3 つの研究課題を設定して 2 つの調査を実施した。研究課題 1 は、高校での様々な部活の体験の内容を明らかにすることとした。研究課題 2 は、高校時代に所属していた部活動での体験や部活動への感情・認知・評価における所属していた部活動の種類による違いなどの実態を明らかにすることとした。研究課題 3 は、高校時代の部活動における体験が大学生の個人の特性をどのように予測するかを明らかにすること(研究課題 3) とした。

調査 1 では、部活動・サークルに所属している大学生を対象に、高校時代の部活動における体験についてのオンライン調査を行った。20 名に協力を依頼したところ、14 名から回答を得た（回収率 70.0%)。研究課題 1 に対して、類似した体験ごとに小カテゴリ（例 :「長時間拘束」,「練習内容への不満」）としてまとめた。次に、類似した小カテゴリを中カテゴリ（例 :「活動内容への不満」）にまとめ、さらに類似した中カテゴリを「活動内容に基づく体験」、「自分自身に関連する体験」、「対人関係に関連する体験」の枠組みに沿って分類した。

調査 2 では、大学生・大学院生を対象に、高校時代の部活動における体験と大学生の個人の特性についてのオンライン調査を行い、85 名から回答を得た。分析の結果、研究課題 2 に対して、部活動の種類によって部活動での体験（文化部よりも運動部のほうが活動頻度が高いなど）や部活動への評価の一部に違いがある（文化部よりも運動部のほうが体力の向上を評価したなど）ことが明らかになった。一方、部活動への感情などには部活動の種類による違いは見られなかった。研究課題 3 に対しては、重回帰分析を行ったところ、高校時代の部活動における人間関係が良好であるほど、大学時の社会性が高くなることが示された。

今後は、高校時代の部活動の体験が部活動での行動（部活の継続）をどのように予測するか、大学での部活動の体験と大学生の個人の特性との間にどのような関係性があるかなどについても検討することが望まれる。

（指導教員 鈴木佳苗）